

2004年度 第3四半期

業績概要

2005年2月3日

日本ビクター株式会社



Victor・JVC

The Perfect Experience

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。

1. 民生事業：米州・欧州の販売苦戦

- ・カムコーダー在庫ほぼ正常化へ

2. 音楽CDの不振

- ・発売延期・ヒット作品不足

3. 国内民生大幅伸長(前年比137%)

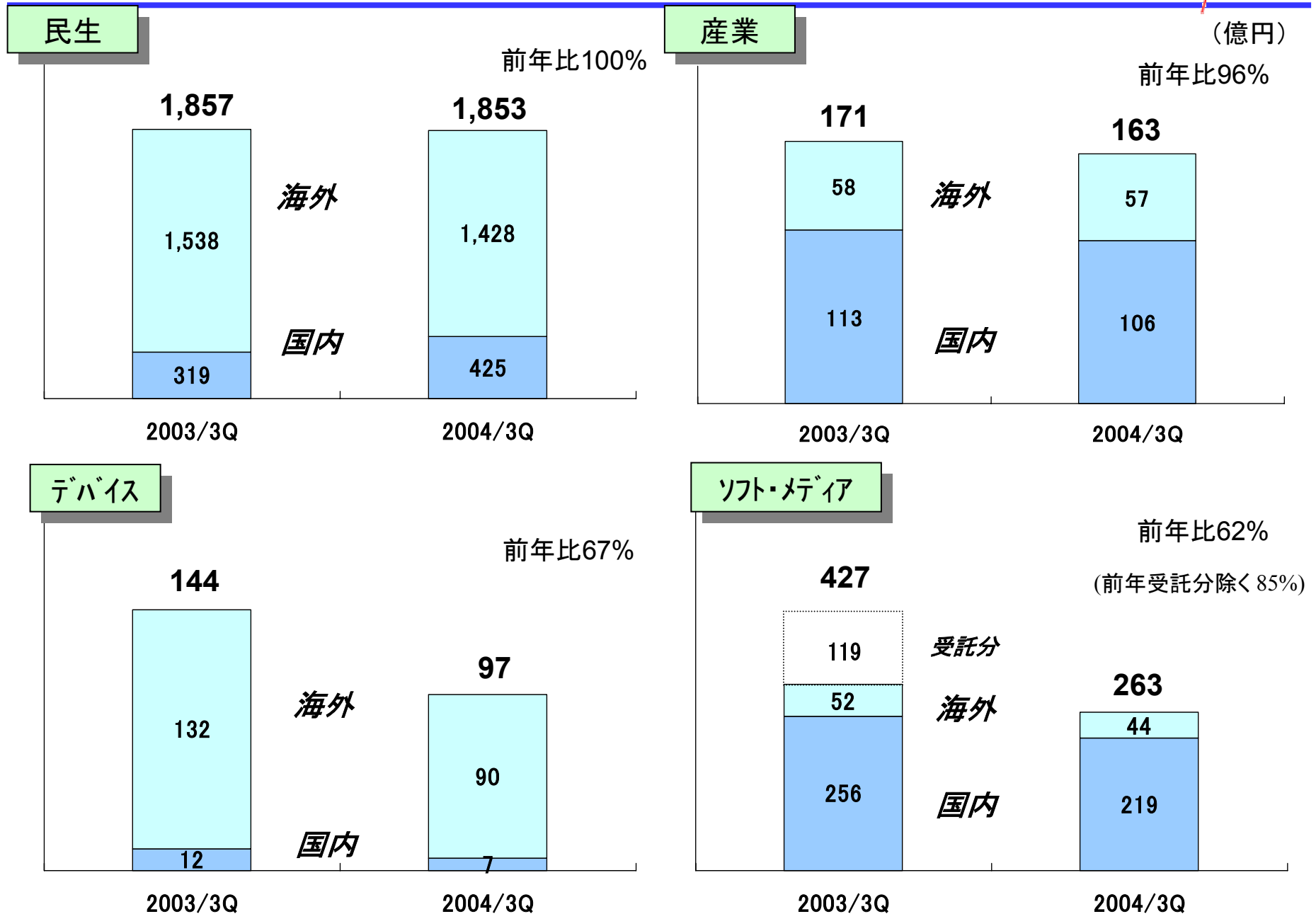
- ・ハードディスクムービー導入
- ・DVDレコーダー・液晶TV伸長

2004年度 第3Q 業績概要(連結)

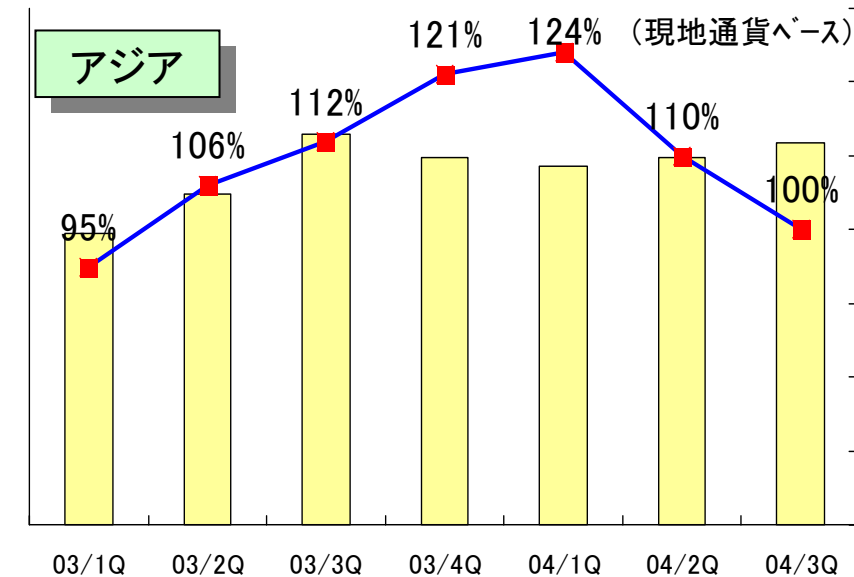
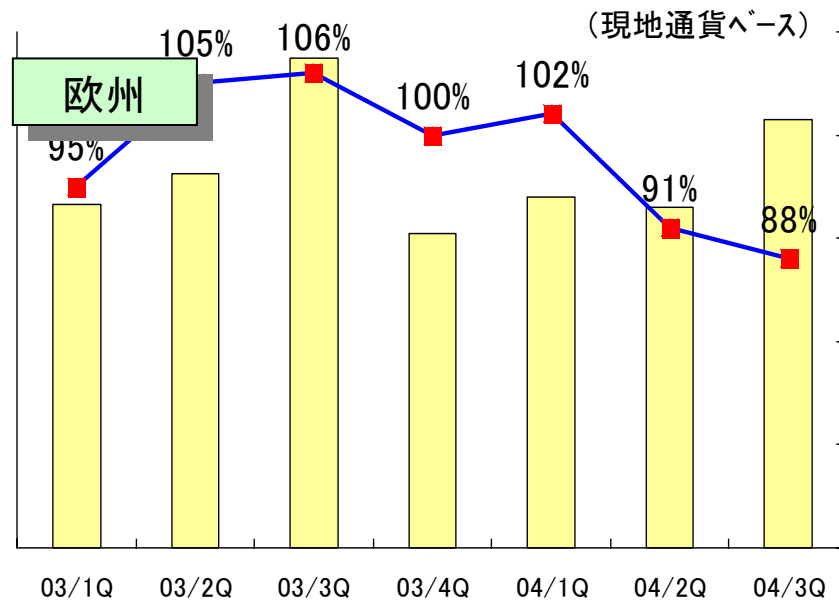
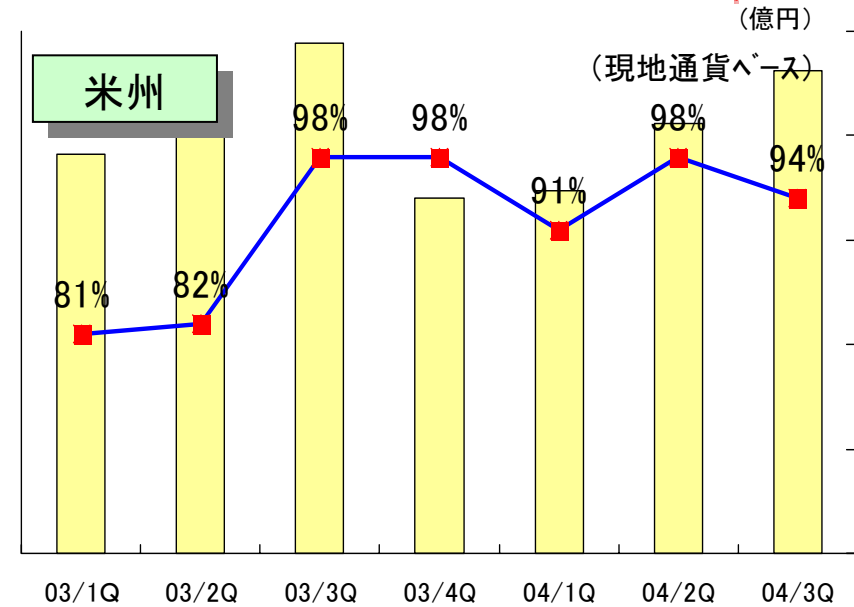
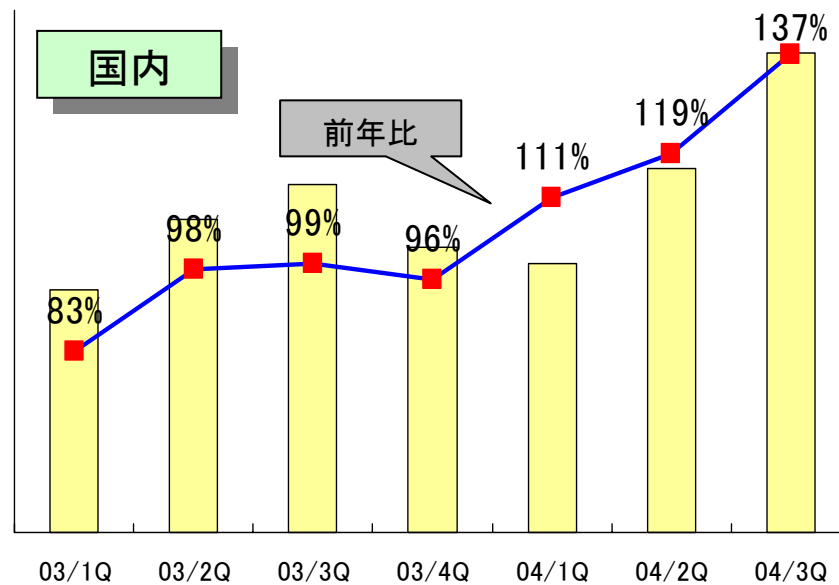
(億円)

	2004/10～2004/12			2004/4～2004/12		
	実 績	前年実績	前年差	実 績	前年実績	前年差
売 上 高		受託除く 2,494	96%		受託除く 6,881	94%
	2,392	2,613	92%	6,493	7,241	90%
営 業 利 益	3.1%	3.8%	74%	1.8%	2.8%	58%
	74	100	▲ 26	118	203	▲ 85
経 常 利 益	2.7%	3.3%	75%	1.5%	2.2%	61%
	65	87	▲ 22	97	159	▲ 62
純 利 益	2.0%	2.6%	68%	0.0%	1.4%	3%
	47	69	▲ 22	3	104	▲ 101

2004年度 第3Q 販売状況



四半期別 民生の販売状況(前年伸長)



2004年度 第3Q 損益増減分析(前年差)

前年
営業利益 100.1

利益増加要因

前年差 ▲25.9億円

実績
営業利益 74.2

(億円)

利益減少要因

US\$:¥109←前年116

EUR:¥133←前年131

為替 7.1

固定費他 24.7

購買CD等
148.4

売価
ダウン
△174.2

販売減 △27.9

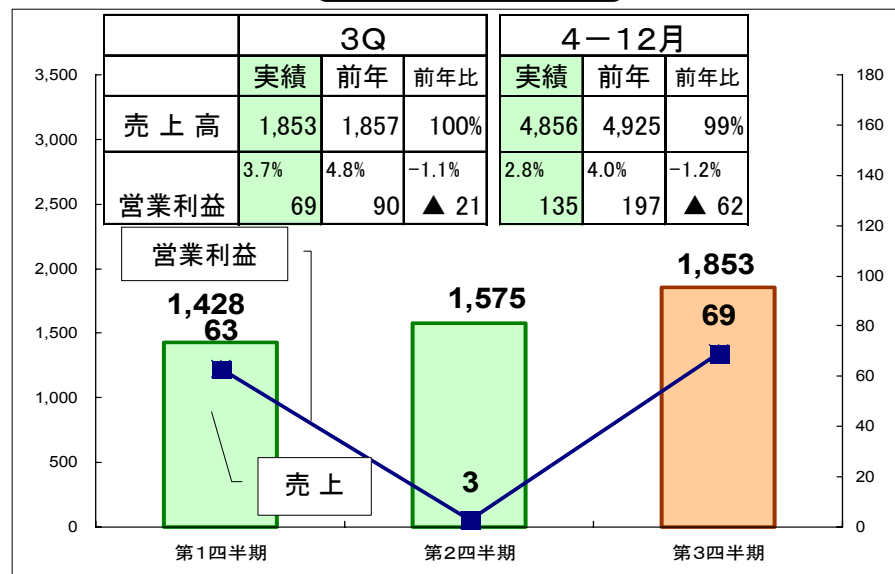
音楽事業 △4.0

前年
実績
100.1

実績
74.2

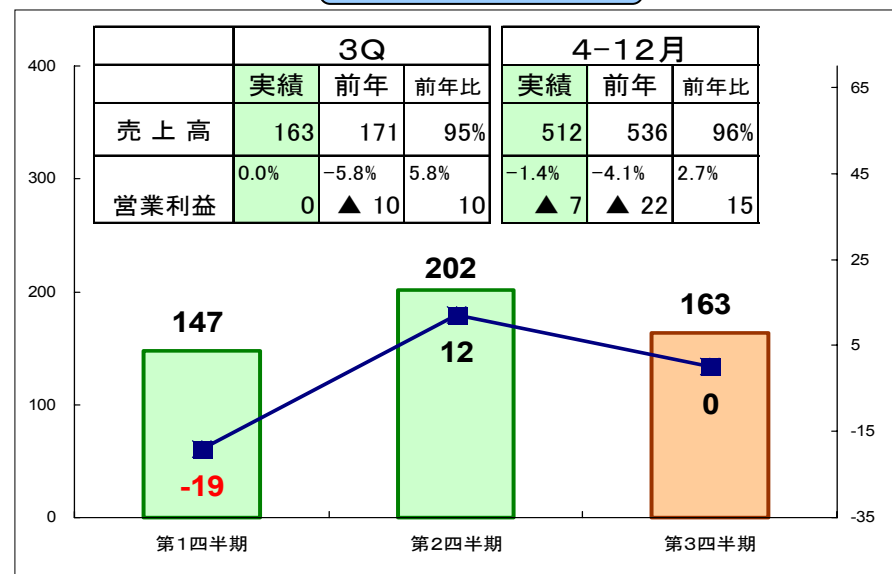
2004年度 第3Q セグメント別の状況

民生

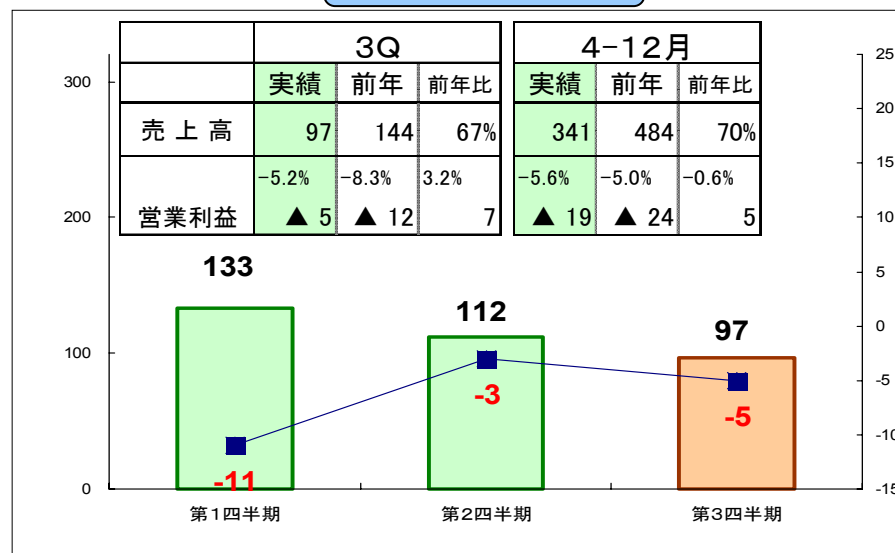


産業

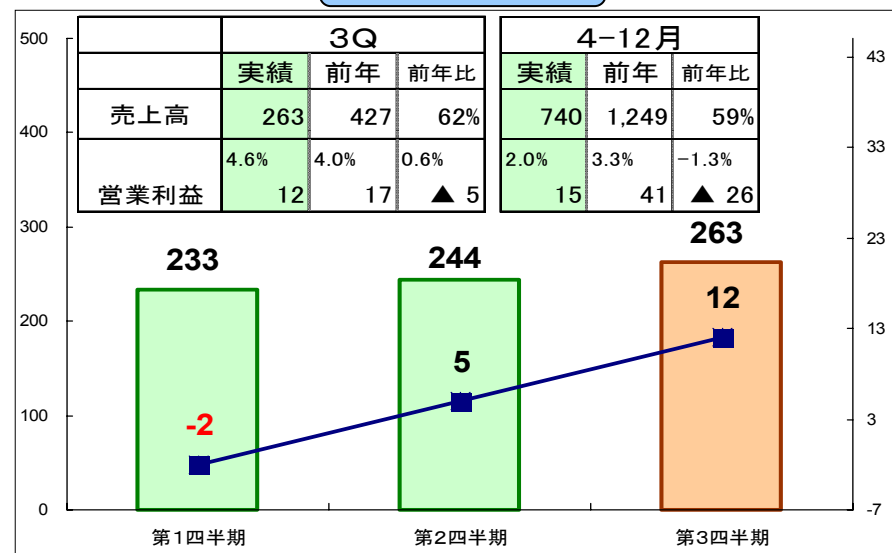
(億円)



デバイス



ソフト・メディア



特損益(連結)

	実績
固定資産・不動産売却等	3.3
有価証券売却益	0.6
構造改革費用	▲ 3.2
合計	0.7

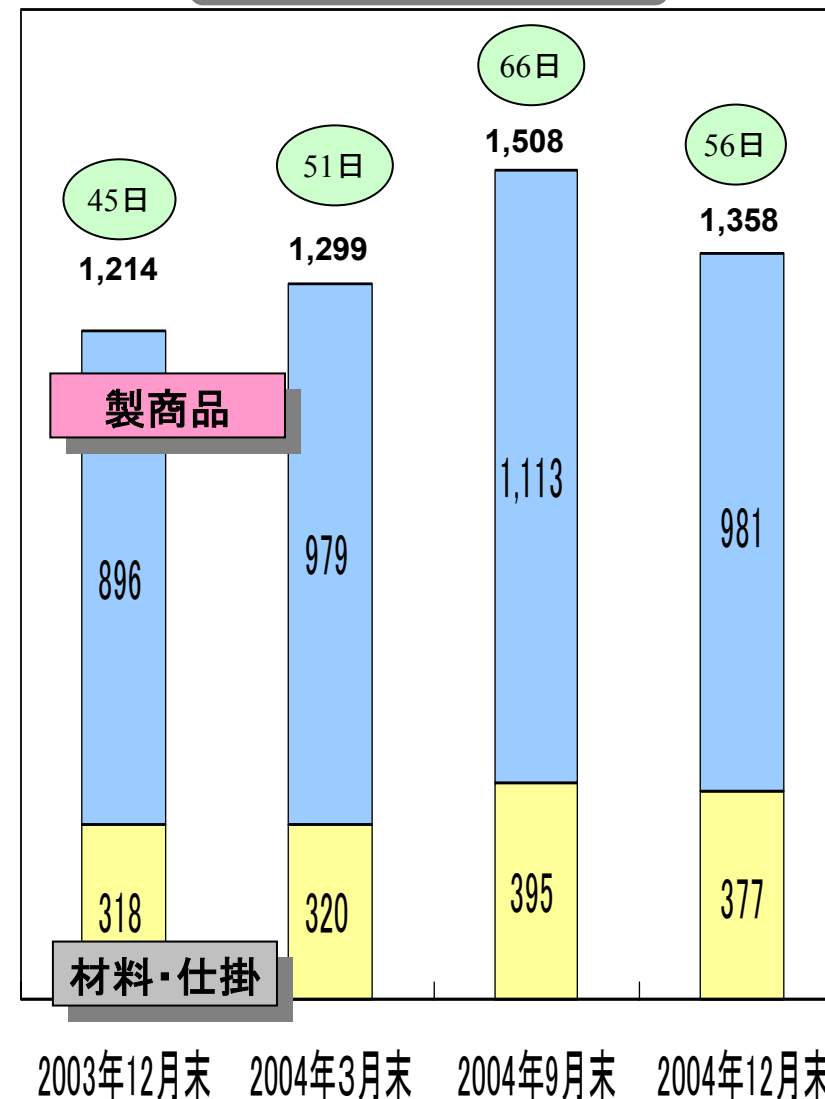
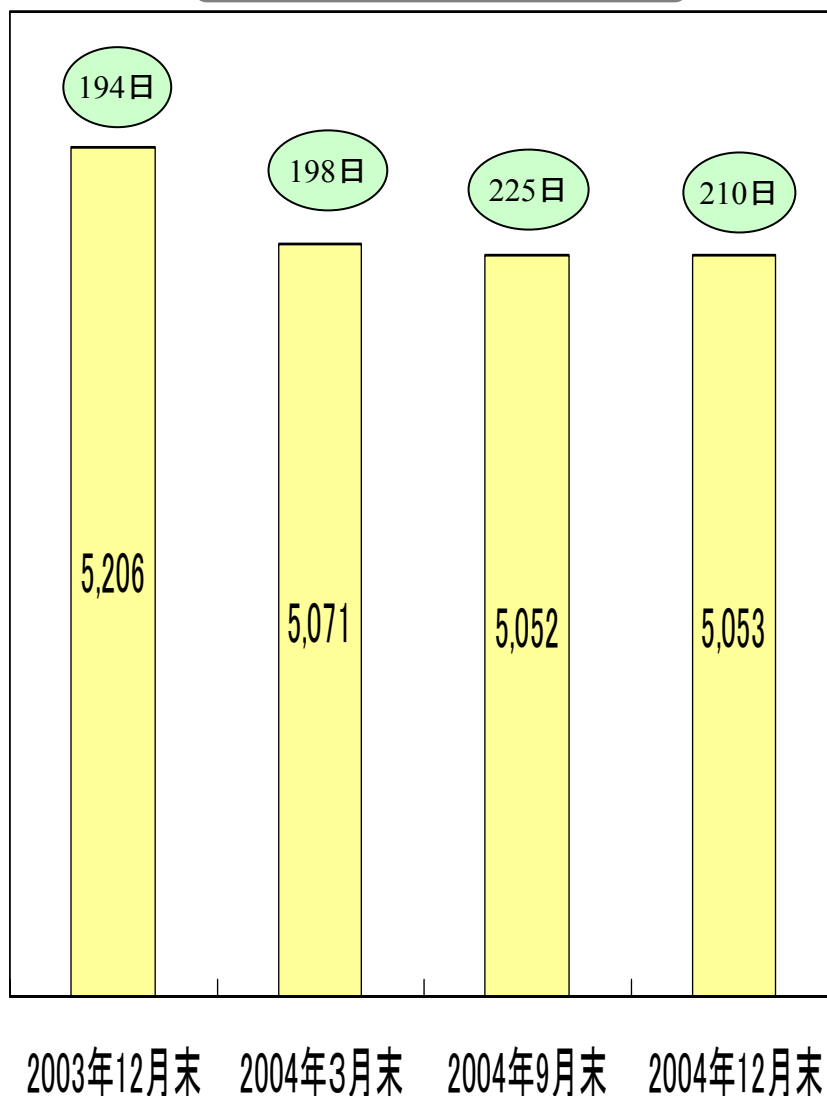
2004年度 第3Q 総資産・棚卸資産の状況

総資産

為替レート	2004/12	2003/12
US\$	104.2	107.1
EUR	141.6	133.7

棚卸資産

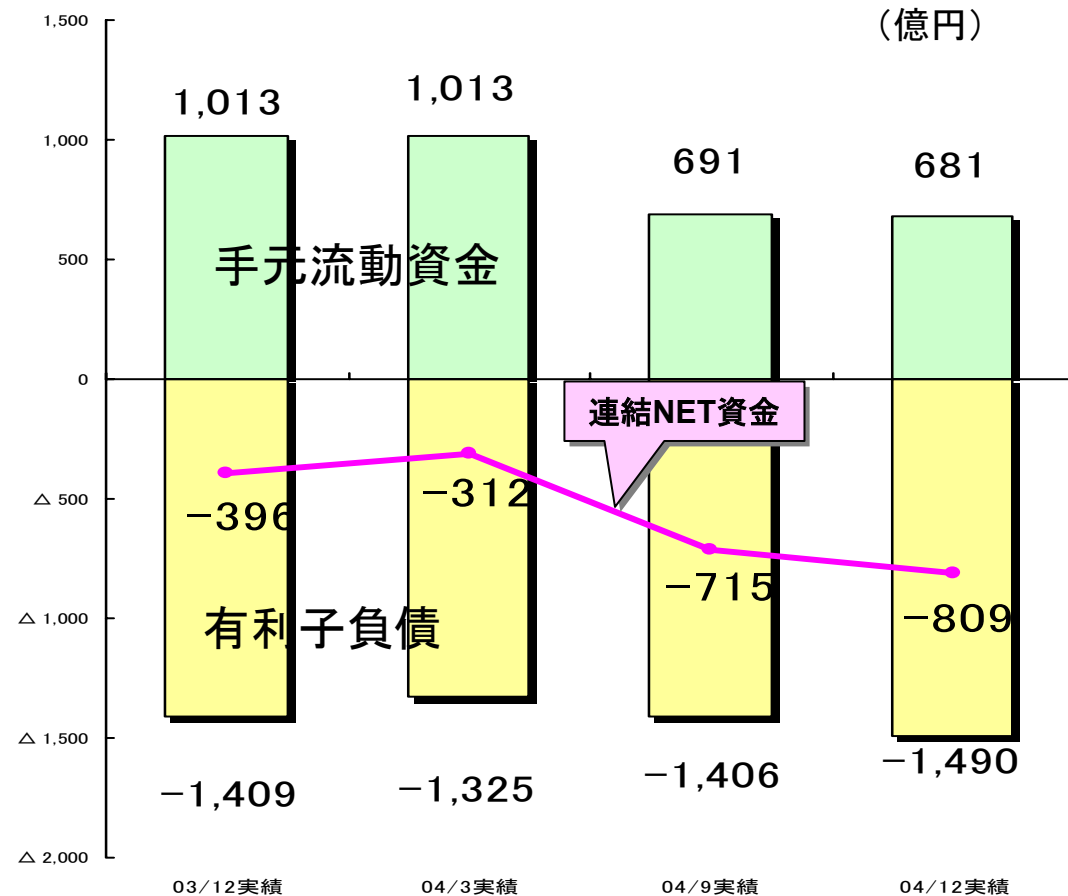
(億円)



2004年度 第3Q キャッシュフロー

連結C／F計算書

	2004/10～ 2004/12
税引前利益	65
減価償却費	57
運転資金	▲ 183
棚卸資産	143
構造改革	▲ 60
その他	▲ 59
営業C／F	▲ 37
固定資産	▲ 61
その他	11
投資C／F	▲ 50
フリーキャッシュフロー	▲ 87
財務C／F	77
その他調整	▲ 2
現金増減	▲ 11
期首残高	690
期末残高	679



【金型除く有形固定資産】 (億円)

2004 / 3Q

設備投資	27
減価償却費	32

2004年度 業績予想

(億円)

<連結>

	業績予想	前年差	前年実績
売上高	9,050	受託除く 102% 98%	受託除く 8,859 9,220
営業利益	2.5% 230	▲ 22	2.7% 252
経常利益	1.9% 170	▲ 32	2.2% 202
純利益	0.4% 40	▲ 116	1.7% 156

<単独>

	業績予想	前年差	前年実績
売上高	4,650	93%	5,017
営業利益	1.0% 45	▲ 34	1.6% 79
経常利益	1.9% 90	21	1.4% 69
純利益	0.3% 15	▲ 57	1.4% 72

これまでの成果～独自性のある商品の登場



HD-ILA
リアプロジェクションテレビ
HD-61/52 Z575/585

HD-ILA
北米で市場導入
10月には
月産1万台体制へ



ハードディスク ムービー
Everio(エブリオ)
GZ-MC200 / MC100

**HDDムービー
“Everio”**
全世界で販売好調



GENESSA搭載
ハイビジョン液晶テレビ
LT-32/26LC50

**ジェネッサ搭載
液晶テレビ**
国内を中心に
販売好調



2Wayウツコーンスピーカー
搭載DVDミニコンポ
EX-A5

**オーディオはウツコーン
4chサラウンドシステム
√4等のOnly1技術
を投入して強化**



VHS&HDD&DVD
ビデオレコーダー
DR-MX3/5

**DVD+HDD+VHS
の3in1モデルが
国内を中心に
好調な売れ行き**



MP3/WMA対応
CDレシーバ
KD-SHX929

**カーエレクトロニクス
は米州、アジア中心
に販売好調を持続**

第4四半期の取り組み

民生	カムコーダー	在庫はほぼ正常化、攻めの戦略へシフト ＝DVC、Everioの中高級機商品配列の強化
	ディスプレイ	大画面、高画質化の徹底追求
	DVDレコーダー	3in1 (DVD+HDD+VHS)モデルを中心とした販売拡大
	カーエレクトロニクス	DVD関連新商品の発売／米・欧・ア・BRIC's市場拡大
産業	国内：電設市場、文教市場で年度末に向けた受注拡大 海外：業務用デジタルビデオカメラなど新商品発売	
電子 デバイス	HDD用流体軸受モーター事業の拡大 偏向ヨーク、CD用光ピックアップの生産性向上とシェア拡大	
ソフト メディア	有力新譜(SMAP、ラブサイケデリコ 他)の投入による販売拡大 ブランクメディアの急速な価格下落に対応した生産性向上と間口拡大	